

新処理施設整備に係る 生活環境影響調査の結果に関する説明会

～新処理施設整備に係る生活環境影響調査 報告書(案)について～

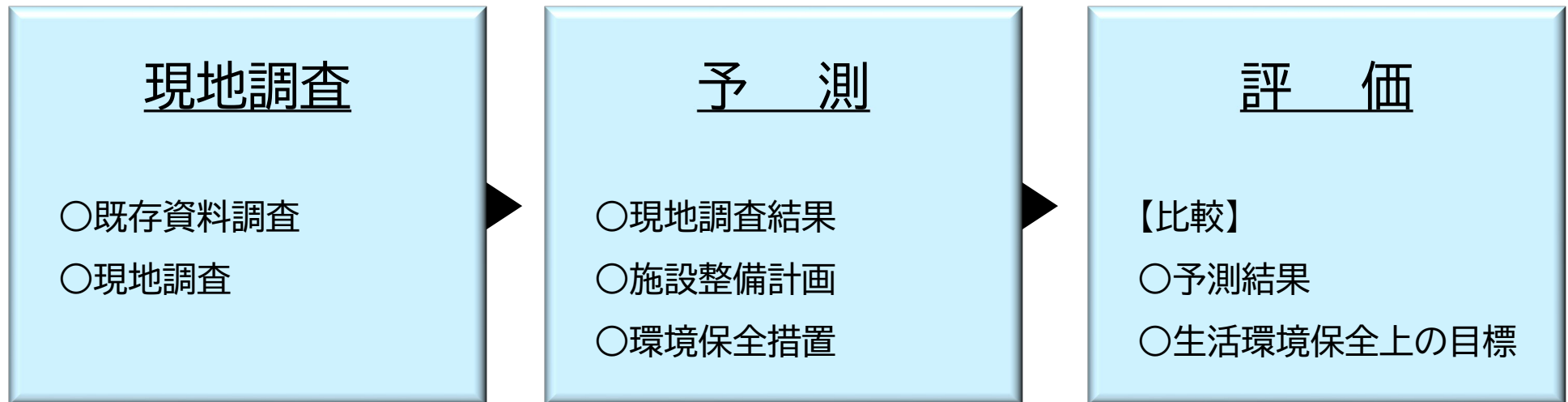
令和8年9月27日
茨城県央環境衛生組合

本曰ご説明する内容

- 1 生活環境影響調査の目的について
- 2 事業計画の概要
- 3 現地調査結果・影響の分析について
- 4 総括

1 生活環境影響調査の目的について

- 生活環境影響調査は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第9条の3第1項に規定されている調査です。
- 今回の新処理施設整備事業が、周辺地域の生活環境に与える影響について事前に調査・予測・評価し、その結果を踏まえて必要な環境保全措置を講じることにより、生活環境の保全を図ることを目的としています。



2 事業計画の概要

《施設の概要》

項目	内容
設置者	茨城県央環境衛生組合(構成市町:笠間市及び茨城町)
設置場所	東茨城郡茨城町大字馬渡45-4及び244-1の一部
施設の種類	汚泥再生処理センター
処理対象廃棄物	し尿、浄化槽汚泥及び農業集落排水施設汚泥
処理能力	95kL/日 し尿 : 7kL/日 浄化槽汚泥 : 76kL/日 農業集落排水施設汚泥 : 12kL/日
処理方式	水処理方式:生物学的脱窒素処理方式(高負荷脱窒素処理方式、膜分離高負荷脱窒素処理方式又は浄化槽汚泥の混入比率の高い脱窒素処理方式) 資源化方式:助燃剤化又はリン回収
放流先	涸沼前川

2 事業計画の概要

《環境保全措置の概要》

大気質	・収集運搬車両には、排出ガス規制適合車を使用します。走行時には法定速度を遵守するとともに、急発進・急ブレーキや空ぶかしを行わないように努め、アイドリングストップを励行します。 ・特定の時間帯に収集運搬車両の通行が集中しないよう調整を図ります。
騒音	・騒音が想定される機器については、騒音を防止できる構造とします。 ・施設の適正な運転管理を行うことで、過負荷運転を避け、騒音の発生防止に努めます。 ・設備機器の定期的な保守点検を実施することで、設備不良等による異音の発生を防止します。
振動	・振動が想定される機器については、振動を防止できる構造とします。 ・大きな振動が発生する機器については、防振効果のある室内に設置します。 ・施設の適正な運転管理を行うことで、過負荷運転を避け、振動の発生防止に努めます。 ・設備機器の定期的な保守点検を実施することで、設備不良等によるがたつきの発生を防止します。

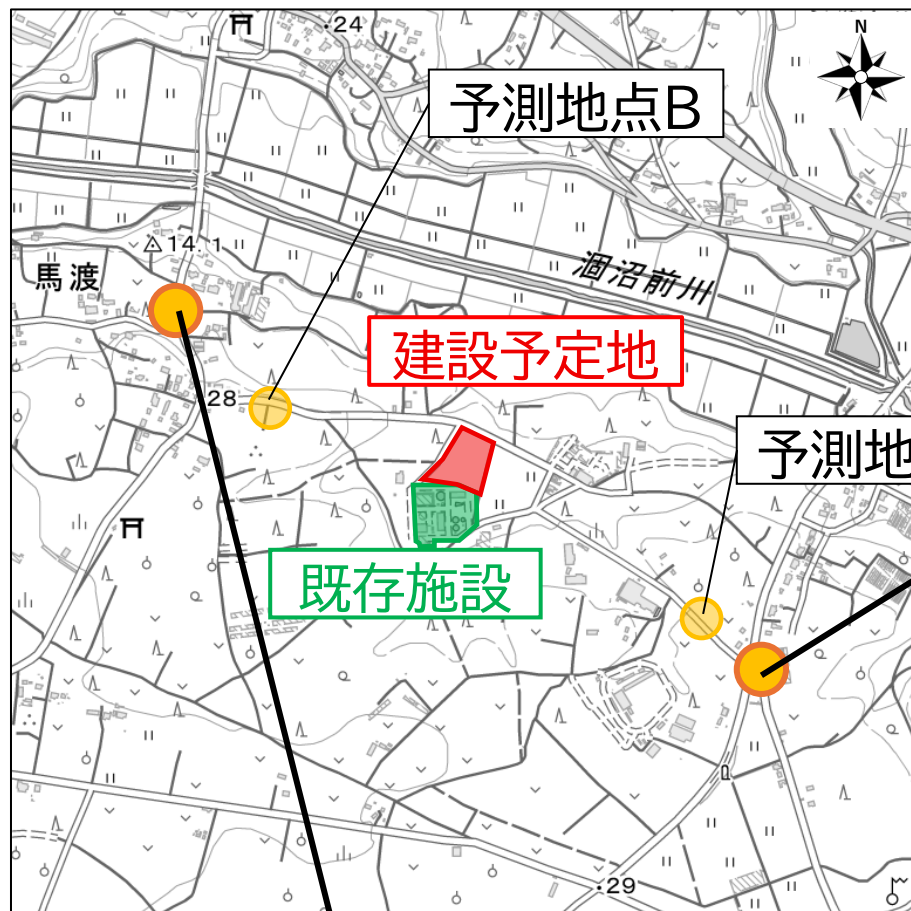
2 事業計画の概要

《環境保全措置の概要》

悪 臭	・発生臭気を高濃度、中濃度、低濃度に区分し、これに見合った捕集方法で適切な脱臭装置へ導きます。 ・施設から発生する臭気は、各工程で捕集した後、脱臭装置により適切に処理し、悪臭物質を環境への影響を極力抑えられるレベルまで低減します。 ・臭気の発生が想定される処理設備は密閉し、臭気の漏洩を防ぎます。 ・各種点検作業時には、点検開口時に臭気が漏洩しないように十分な捕集能力を確保します。 ・脱臭装置の適切な点検、整備を実施し、処理能力の維持に努めます。
水 質	・施設の処理水質については、施設の適正な運転管理を行うことで、関係法令や公害防止基準値を満足した水質レベルとします。 ・放流の際には、流量を適切に調節できるよう計画し、日間の変動を抑制するとともに、安定した流量で送水します。

3-1 現地調査結果・影響の分析について【大気質】

《調査地点及び予測地点》



大戸地区町道交差点付近



馬渡新農村集落センター

○調査期間

夏季:令和7年8月21日(木)~27日(水)

冬季:令和7年12月2日(火)~ 8日(月)



3-1 現地調査結果・影響の分析について【大気質】

《現地調査結果》

- 大気質について現地調査をした結果、環境基準の基準値を満足していました。

調査項目		大戸地区町道 交差点付近	馬渡新農村 集落センター	環境基準
		夏季／冬季	夏季／冬季	
二酸化窒素 (ppm)	日平均値の 最大	0.007 / 0.013	0.006 / 0.011	0.04～0.06 以下
浮遊粒子状 物質 (mg/m ³)	1時間値の 最大	0.041 / 0.086	0.038 / 0.034	0.20以下
	日平均値の 最大	0.024 / 0.025	0.025 / 0.024	0.10以下



3-1 現地調査結果・影響の分析について【大気質】

《目標値の設定》

- 大気質について、以下のとおり生活環境の保全上の目標を設定しました。

生活環境の保全上の目標

【し尿等の運搬車両の走行】

環境基準

予測物質：二酸化窒素、浮遊粒子状物質

項目	目標値
二酸化窒素（ppm）	0.04以下
浮遊粒子状物質（mg/m ³ ）	0.10以下

○環境基準：人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準であり、環境基本法により定められています。

3-1 現地調査結果・影響の分析について【大気質】

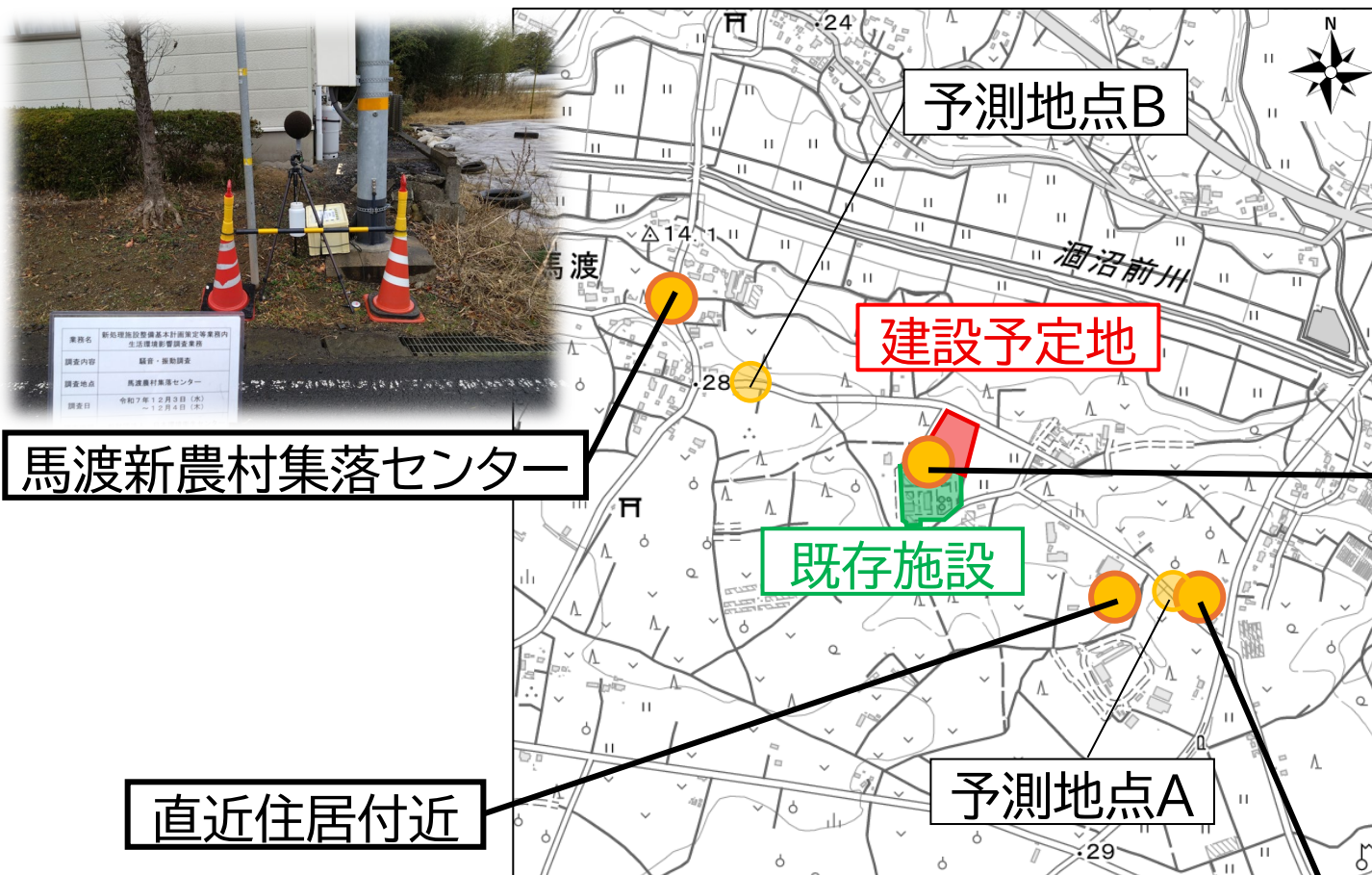
《影響の分析》

- 計画施設の稼働に伴い走行するし尿等の運搬車両の影響を検討するため、現地における交通量調査結果及び収集運搬車両の将来予測値を使用し、現地の大気質への影響を評価しました。
- 各予測地点(建設予定地に至る町道上の2地点)における予測値(二酸化窒素及び浮遊粒子状物質)は、いずれも目標値を満足していました。

項目	予測地点A	予測地点B	目標値
二酸化窒素 (ppm)	0.013	0.011	0.04以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.039	0.039	0.10以下

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《調査地点及び予測地点》



○調査期間

夏季:令和7年 8月25日(月)~26日(火)

冬季:令和7年12月 3日(水)~ 4日(木)



建設予定地 敷地境界



大戸地区町道交差点付近

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《現地調査結果：騒音》

- 建設予定地及び周辺環境における騒音について現地調査をした結果、環境基準や規制基準の基準値を概ね満足していました。
- 観測された騒音は、周辺環境に由来する車の走行音や虫の鳴き声等でした。

(単位: dB)

時間区分	建設予定地敷地境界	直近住居付近	規制基準※1 ／環境基準※2
	夏季／冬季	夏季／冬季	
朝(6～8時)	53 / 47	—	60※1
昼間(8～18時)	52 / 48	—	65※1
夕(18～21時)	59 / 44	—	60※1
夜間(21～6時)	53 / 43	—	50※1
昼間(6～22時)	—	56 / 44	60以下※2
夜間(22～6時)	—	47 / 41	50以下※2

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《現地調査結果：騒音》

- 交通騒音について現地調査をした結果、環境基準や規制基準の基準値を概ね満足していました。
- 観測された騒音は、周辺環境に由来する車の走行音や虫の鳴き声等でした。

(単位: dB)

時間区分	大戸地区町道交差点付近	馬渡新農村集落センター	規制基準※1 ／環境基準※2
	夏季／冬季	夏季／冬季	
昼間(6～22時)	57 / 54	64 / 66	75※1 ／65以下※2
夜間(22～6時)	49 / 43	55 / 54	70※1 ／60以下※2

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《目標値の設定：騒音》

- 騒音について、以下のとおり生活環境の保全上の目標を設定しました。

生活環境の保全上の目標

【計画施設の稼働】

環境基準

時間区分	目標値
昼間 6:00～22:00	60dB以下
夜間 22:00～ 6:00	50dB以下

【し尿等の運搬車両の走行】

環境基準、現況を悪化させないこと

時間区分	目標値	予測地点
昼間 6:00～22:00	65dB以下	地点A
昼間 6:00～22:00	現況を悪化させないこと	地点B

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《影響の分析：騒音》

- 計画施設の稼働及びし尿等の運搬車両の走行による騒音の影響を検討するため、現地調査結果及び将来予測値を使用し、周辺環境への影響を評価しました。
- 騒音について、いずれの予測結果も生活環境保全上の目標を達成する結果となりました。

【計画施設の稼働】 (単位: dB)

時間区分	予測値(直近住居付近)	目標値
昼間	48	60以下
夜間	41	50以下

【し尿等の運搬車両の走行】 (単位: dB)

時間区分	予測地点A	予測地点B	目標値
昼間	54	66	予測地点A: 65以下 予測地点B: 現況を悪化させないこと

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《現地調査結果：振動》

- 建設予定地及び周辺環境における振動について現地調査をした結果、規制基準の基準値を満足していました。
- 観測された振動は、既存施設の稼働や収集運搬車両によるものでした。

(単位: dB)

時間区分	建設予定地敷地境界	直近住居付近	規制基準
	夏季／冬季	夏季／冬季	
昼間(6～21時)	43 / 44	25 / 26	70
夜間(21～6時)	43 / 44	25未満 / 25未満	60

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《現地調査結果：振動》

- 交通振動について現地調査をした結果、規制基準の基準値を満足していました。
- 観測された振動は、周辺環境に由来する車によるものでした。

(単位: dB)

時間区分	大戸地区町道交差点付近	馬渡新農村集落センター	規制基準
	夏季／冬季	夏季／冬季	
昼間(6～21時)	30 / 30	39 / 40	70
夜間(21～6時)	25未満 / 25未満	25未満 / 25	65

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《目標値の設定：振動》

- 振動について、以下のとおり生活環境の保全上の目標を設定しました。

生活環境の保全上の目標

【計画施設の稼働】

人がほとんど振動を感じない値

時間区分	目標値
昼間・夜間	55dB以下

【し尿等の運搬車両の走行】

規制基準

時間区分	目標値
昼間 6:00～21:00	70dB以下

○規制基準：振動規制法により、道路交通振動に係る要請限度を定めた、道路周辺の生活環境が著しく損なわれていると認められる際の基準。

3-2 現地調査結果・影響の分析について【騒音・振動】

《影響の分析：振動》

- 計画施設の稼働及びし尿等の運搬車両の走行による振動の影響を検討するため、現地調査結果及び将来予測値を使用し、周辺環境への影響を評価しました。
- 振動について、いずれの予測結果も生活環境保全上の目標を達成する結果となりました。

【計画施設の稼働】

(単位: dB)

時間区分	予測値(直近住居付近)	目標値
昼	39	55以下
夜	30	55以下

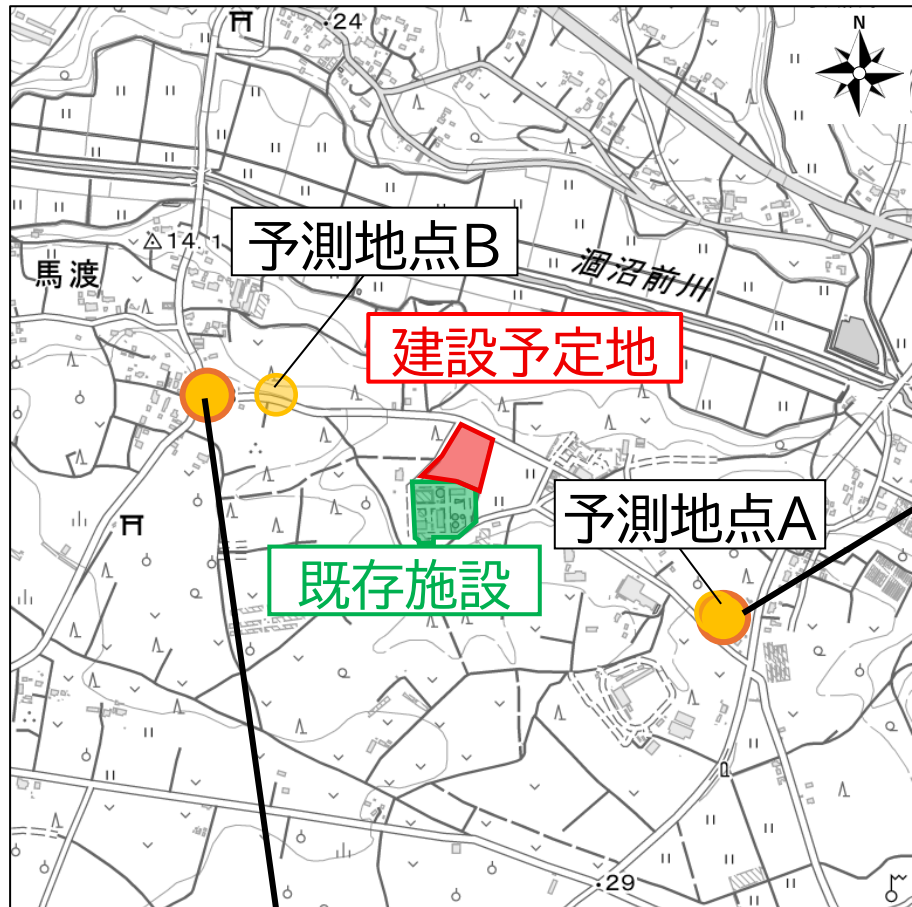
【し尿等の運搬車両の走行】

(単位: dB)

時間区分	予測地点A	予測地点B	目標値
昼	28～36	29～51	70以下

3-3 現地調査結果について【交通量】

《調査地点及び予測地点》



大戸地区町道交差点付近



馬渡地区町道交差点付近

○調査期間

夏季:令和7年 8月25日(月)~26日(火)

冬季:令和7年12月 3日(水)~ 4日(木)

3-3 現地調査結果について【交通量】

《現地調査結果》

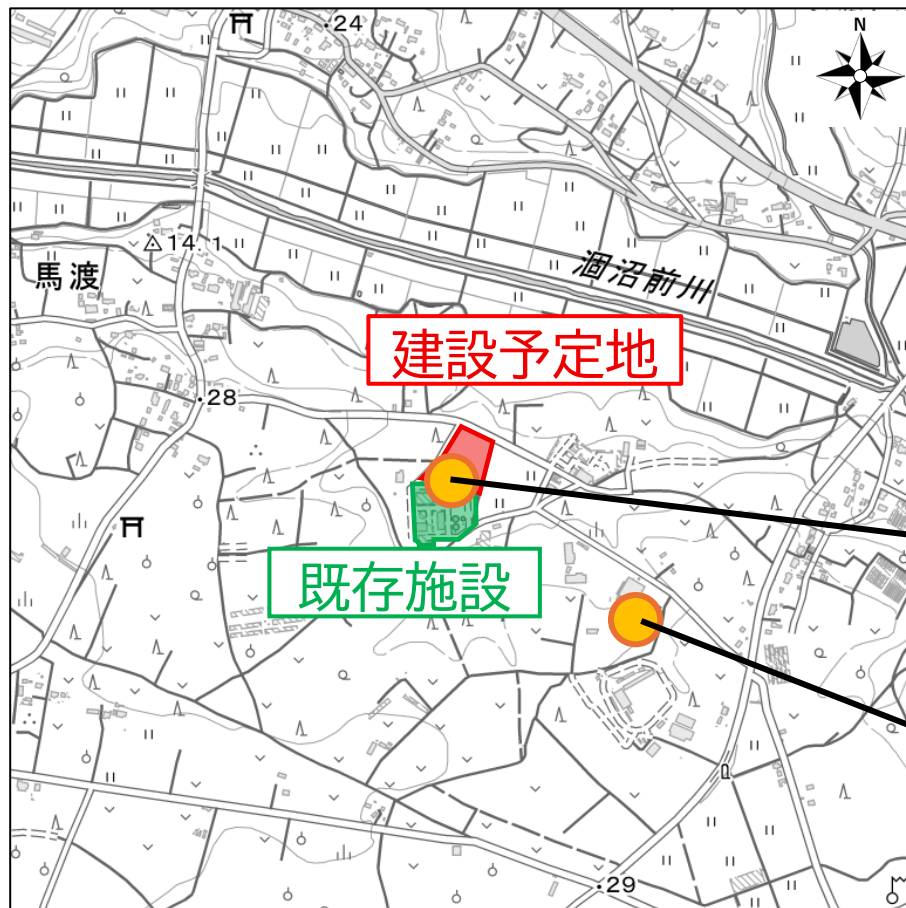
- 交通量の現地調査結果の概要は以下のとおりです。
- 交通量の調査結果は、計画施設における搬入車両の交通に伴う、大気質や騒音、振動の将来予測を行う際に使用しました。

調査項目	馬渡地区町道交差点付近		大戸地区町道交差点付近	
	夏季	冬季	夏季	冬季
大型車	39台	23台	65台	45台
小型車	212台	142台	308台	258台
し尿収集車	65台(19%)	41台(20%)	21台(5%)	32台(9%)
二輪車	19台	4台	10台	6台
合計	335台	210台	404台	341台

※1日あたりの台数

3-4 現地調査結果・影響の分析について【悪臭】

《調査地点及び予測地点》



建設予定地 敷地境界

直近住居付近

○調査期間

夏季:令和7年 8月25日(月)

冬季:令和7年12月 3日(水)

3-4 現地調査結果・影響の分析について【悪臭】

《現地調査結果》

- 悪臭について現地調査をした結果、規制基準の基準値を満足していました。

調査項目	建設予定地敷地境界	直近住居付近	規制基準
	夏季／冬季	夏季／冬季	
臭気指数	いずれも10未満	いずれも10未満	—
特定悪臭物質	いずれも 規制基準値以下	いずれも 規制基準値以下	A区域(参考値)

3-4 現地調査結果・影響の分析について【悪臭】

《目標値の設定》

- 悪臭について、以下のとおり生活環境の保全上の目標を設定しました。

生活環境の保全上の目標

【計画施設の稼働】

規制基準

項目	目標値
特定悪臭物質	各項目について、規制基準値(A区域)を満足すること

○規制基準：悪臭防止法により、規制地域内の工場・事業場の事業活動に伴って発生する悪臭について必要な規制を行うこと等により生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する基準。

3-4 現地調査結果・影響の分析について【悪臭】

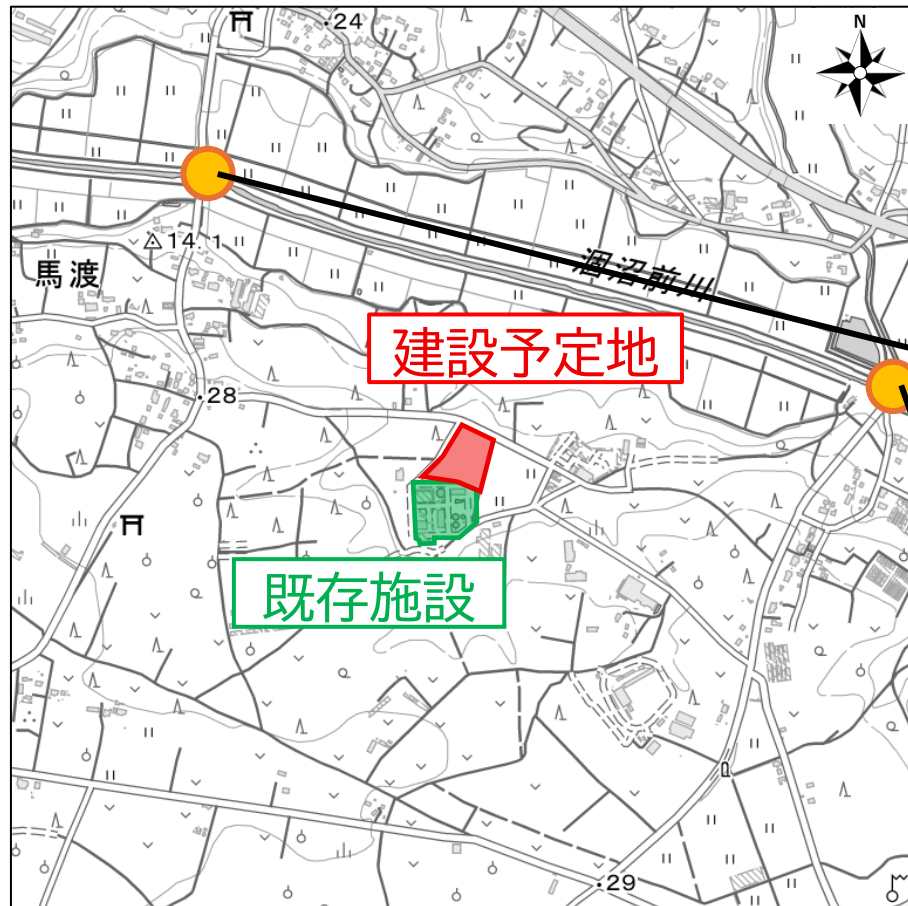
《影響の分析》

- 悪臭について、計画施設においてもこれまでと同等もしくはそれ以上の対策がとられることを考えると、将来においても現況と同程度になるものと予測されます。

項目	予測結果	目標値
特定悪臭物質	現状と同程度(規制基準値以下)	A区域に係る 規制基準値

3-5 現地調査結果・影響の分析について【水質】

《調査地点及び予測地点》



涸沼前川 上流



涸沼前川 下流

○調査期間

夏季:令和7年 8月22日(金)

冬季:令和7年12月 2日(火)

3-5 現地調査結果・影響の分析について【水質】

《現地調査結果》

- 各調査結果は、涸沼前川に係る河川の環境基準(B類型)を満足していました。

調査項目	涸沼前川 上流	涸沼前川 下流	環境基準
	夏季／冬季	夏季／冬季	
pH、BOD、SS等	環境基準値以下	環境基準値以下	河川(B類型)



3-5 現地調査結果・影響の分析について【水質】

《目標値の設定》

- 水質について、以下のとおり生活環境の保全上の目標を設定しました。

生活環境の保全上の目標

【計画施設の稼働】

環境基準

項目	目標値
生物化学的酸素要求量(BOD)	3 mg/L以下
浮遊物質質量(SS)	25 mg/L以下

3-5 現地調査結果・影響の分析について【水質】

《影響の分析》

- 涸沼前川における現地調査結果に、計画施設における放流水質の合流を加味することで、将来の水質を予測しました。
- 予測結果は、目標値(涸沼前川に係る環境基準(B類型))を満足していました。

項目	予測結果	目標値
生物化学的酸素要求量(BOD)	1 mg/L	3 mg/L以下
浮遊物質(SS)	2 mg/L	25 mg/L以下

4 総括

- 各調査結果については、施設の稼働や収集運搬車両の走行に伴う影響について予測を行い、設定した生活環境保全上の目標と比較し評価しました。
- 評価の結果、いずれの項目についても、生活環境保全上の目標を満足していました。
- よって、計画施設や収集運搬車両の走行による周辺地域の生活環境への影響は、総合的に見て最小化されており、十分に生活環境に配慮した事業計画であると評価しました。

本調査の実施にあたり、ご理解とご協力を賜りましたことに、
心より御礼申し上げます。